

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	395		部 局 名	教育委員会	所 属 名	文化財保護課	所 属 長	山口秀一
事務事業名	02387	文化財指定推進事業	記 入 者	和田光生				

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称		根 拠 法令等	文化財保護条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り			
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します			
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信			
	視点	01	歴史・文化遺産の保全			
	重事	01	未指定文化財の指定		関連する個別計画	
関連事業	コード	事務事業名称			コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期	
	一般会計	政策	評価対象事業	文化財指定推進事業費		
事業の概要	市内に残る数多くの歴史文化遺産を後世に継承していくため、その調査・研究をすすめ、文化財専門委員会への諮問・答申を経て、市指定文化財に指定する。					
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()					

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	市内に残る歴史文化遺産を良好な形で後世に継承していくため
対象 (何又は誰を)	市内に残る歴史文化遺産を
手段 (どのようなやり方で)	文化財専門委員会の学術的検証を経て、市指定文化財に指定し、
成果 (どのような状態にするのか)	本市の豊かな歴史と文化を内外に紹介し、文化財への理解を深めて、文化財保護を推進する。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		191	3	1	210	210	
人件費 B		3,966	4,015	1,640	3,563	3,563	
事業費合計 A+B		4,157	4,018	1,641	3,773	3,773	
事業費 の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	4,157	4,018	1,641	3,773	3,773	
職員数(人)		0.55	0.55	0.20	0.55	0.55	
職員数 の内訳	正規	0.50	0.50	0.20	0.50	0.50	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.05	0.05	0.00	0.05	0.05	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	新指定文化財の件数	件	目標	3	3	2	2	2
				実績	2	0	0	-	-
	一年間で新たに指定した文化財件数								
	2			目標					
		実績							
成果指標	1	市内に所在する指定文化財の件数	件	目標	540	543	545	545	547
				実績	539	539	543	-	-
	市内に所在する国・県・市指定文化財の総件数								
	2	大津市指定文化財件数(累計)	件	目標	136	139	141	128	130
実績				128	128	126	-	-	
市指定文化財の総件数									

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	人口減少や生活様式等の社会状況の変化を背景に、貴重な文化財が滅失・散逸等の危機に瀕している。文化財を後世に継承していくためには、速やかにその実態を把握し、調査や研究を行っていく必要がある。	
これまでの見直しや改善等の経過	学識経験者で構成する文化財専門委員会での学術的な検証を行い、地域における文化財の価値を明確にしたうえで、指定文化財に指定していく。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	本市が文化財に指定することで、価値付けが明確になり、保護が図れる。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	目標には達していないが、文化財の指定件数は増加している。
効率性 (事業手法は効率的であるか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	文化財の評価を明確にするため、学識経験者で構成する文化財専門委員会による調査と審議は不可欠である。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	豊かな文化財を後世に継承していくため必要な事業であり、歴史豊かな本市のまちづくりに貢献している。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	本市の国指定等文化財の件数は、京都市、奈良市に次いで、全国第3位を数える。その一方で、文化財に指定されていないが、長年にわたり大切に守り続けられてきた貴重な歴史文化遺産も数多く存在する。これら多くの歴史文化遺産の調査を進め、市指定文化財に指定し、保護を図ることで後世に継承していく。
部局長コメント	指定文化財の多さは、本市における歴史・文化の豊かさの証しである。これら文化財は、まちづくり、地域振興、観光などへの活用が期待できる。そして何より、これまで文化財を守ってきた所有者、地域住民をはじめとして、市民、行政や関係者などが連携しながら、文化財の保存継承に取り組んでいくことが必要である。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	99.81 %	99.26 %	99.63 %
	指標2	94.11 %	92.08 %	89.36 %
成果増減率	指標1	- %	±0.00 %	+0.74 %
	指標2	- %	±0.00 %	-1.56 %
活動単位コスト	指標1	2,078 千円	0 千円	0 千円
	指標2	0 千円	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標1	7 千円	7 千円	3 千円
	指標2	32 千円	31 千円	13 千円
コスト増減率		- %	-3.34 %	-58.98 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	396	部 局 名	教育委員会	所 属 名	文化財保護課	所 属 長	山口秀一
事務事業名	00792 文化財保存修理等補助事業	記 入 者	和田光生				

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	文化財保護条例、補助金等交付規則
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人々が集うまちを創り		
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します		
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信		
	視点	01	歴史・文化遺産の保全		
重事	02	指定文化財などの保存修理			
関連事業				コード	所属名称
				00679	文化観光振興等助成事業
				1604	観光振興課

予 算 事 業	会 計	枠	事 業 種 別	予 算 事 業 名	始 期 ・ 終 期
	一般会計	政策	評価対象事業	文化財保存修理等補助事業費	

運 営 方 法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()					
---------	---	--	--	--	--	--

事業の概要

市内に残されている国・県・市指定文化財の保存修理等を行う場合に補助金を交付することで、所有者の負担軽減により保存修理等の促進をはかり、貴重な文化財を良好な状態で後世に継承する。

＜2. 事業分析＞ PLAN

目 的 (何のために)	文化財保存にあたって、所有者の経済的負担の軽減によって保存修理等の促進をはかるため
対 象 (何又は誰を)	市内に残る国・県・市指定文化財を対象に
手 段 (どのようなやり方で)	修理及び管理に要する経費の一部を補助し
成 果 (どのような状態にするのか)	貴重な文化財を良好な状態で後世に継承する

＜3. 経費＞ DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		42,969	42,144	35,716	35,738	54,657	
人件費 B		8,081	8,605	9,138	8,548	8,548	
事業費合計 A+B		51,050	50,749	44,854	44,286	63,205	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	51,050	50,749	44,854	44,286	63,205	
職 員 数 (人)		1.15	1.20	1.30	1.20	1.20	
職員数の内訳	正 規	1.10	1.15	1.25	1.15	1.15	
	嘱 託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨 時	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	補助件数	件	目標	49	55	55	60	60	
				実績	60	63	58	-	-	
	単年度あたりの指定文化財修理・管理等に対する補助件数									
	2	補助申請件数	件	目標	65	68	70	70	70	
実績				68	64	59	-	-		
単年度あたりの指定文化財の修理・管理等に対する補助申請件数 ※平成30年度事後評価から適用										
成果指標	1	補助事業として修理等を実施した文化財の件数の累計	件	目標	136	160	175	190	200	
				実績	156	174	187	-	-	
	保存修理等を実施した文化財の件数(累計)									
	2	補助採択件数	件	目標	60	63	65	60	60	
実績				60	63	58	-	-		
保存・管理等の補助採択件数 ※平成30年度事後評価から適用										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	市内には多数の文化財が残されており、計画的に保存修理等していく必要がある。近年は、文化財をまちづくりや地域振興、観光などに活用することが期待されており、文化財を適切に保存継承していく必要がある。		
これまでの見直しや改善等の経過	指定文化財の保存修理や防火対策等については、所有者への意向調査や情報提供を行い、丁寧な相談に応じながら、補助事業の採択へとつなげている。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	所有者の経費負担の軽減を図り、国民共有の財産である文化財を適切に保存し、将来に継承していく必要がある。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	補助事業を活用し、確実に指定文化財の保存修理がすすんでいる。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	所有者からの修理等の要望に応え、必要な時期に補助金を交付することで、時機を逃さず修理がすすめられている。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	毎年、少しずつではあるが、文化財の修理を進めることで、文化財が適切に保存され、豊かな文化財を活かしたまちづくりに寄与している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	先人たちの絶え間ない努力により、守り伝えられてきた文化財を次世代へ継承していくためには、文化財の計画的な保存修理と日常的な維持管理が欠かせない。所有者の意向を踏まえながら、文化財を適切に保存修理できるよう、引き続き補助事業を進めていく。
部局長コメント	文化財は、歴史や文化を正しく理解するためにはなくてはならないものである。これら文化財を将来に継承していくためには、適切に保存・修理することが欠かせない。所有者との連絡を密にし、国・県との調整を取りながら、効果的に事業を進めていく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	- %	- %
	指標2	100.00 %	100.00 %
成果増減率	指標1	- %	- %
	指標2	- %	+5.00 %
活動単位コスト	指標1	- 千円	- 千円
	指標2	750 千円	792 千円
成果単位コスト	指標1	- 千円	- 千円
	指標2	850 千円	805 千円
コスト増減率	- %	-5.32 %	-3.99 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	397				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	文化財保護課	所 属 長	山口秀一
事務事業名	00796 市内史跡等整備事業	記 入 者	田中久雄		

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	文化財保護法
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します		
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信	関連する個別計画	
	視点	01	歴史・文化遺産の保全		
重事	99	その他			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	市内史跡等整備事業費	
事業の概要	市内に残された史跡を公有化し、保存する。また、史跡公園として整備し、一般に公開することにより、市民の史跡に対する理解を深め、地域のまちづくり等にも活用する。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	市内に残された史跡等を良好な形で守り伝えていくため
対象 (何又は誰を)	市内に残された史跡等を対象に
手段 (どのようなやり方で)	土地の公有化と整備を進めることで
成果 (どのような状態にするのか)	史跡等を適切に保存し、次世代へ継承していく

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		22,383	13,345	47,910	43,557	60,619	
人件費 B		3,719	3,759	4,253	4,253	5,433	
事業費合計 A+B		26,102	17,104	52,163	47,810	66,052	
事業費の内訳	国	17,793	10,619	38,280	34,670	48,320	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
一般財源		8,309	6,485	13,883	13,140	17,732	
職員数(人)		0.53	0.53	0.55	0.55	0.75	
職員数の内訳	正規	0.43	0.43	0.50	0.50	0.70	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.10	0.10	0.05	0.05	0.05	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	整備用地の公有化①惣山・青江遺跡(R2~対象史跡全体に変更)	㎡	目標	0	0	500	700	700	
				実績	0	0	961	-	-	
	当該年度の公有化予定地全体の公有化(R2年度から公有化対象史跡全体に変更)									
	2	整備用地の公有化②穴太廃寺跡(R2~成果指標1に統合)	㎡	目標	310	200	0	0	0	
実績				161	200	0	-	-		
当該年度の公有化予定地全体の公有化(R2年度から成果指標1に統合)										
成果指標	1	整備用地公有化進捗率①惣山・青江遺跡(R2~史跡全体に変更)	%	目標	82.4	82.4	59	60	61	
				実績	39.8	82.4	59	-	-	
	史跡全体に占める公有化率(R2年度から全体対象史跡面積89,902.71㎡に変更)									
	2	整備用地公有化進捗率①穴太廃寺跡(R2~成果指標1に統合)	%	目標	66.5	66.8	0	0	0	
実績				65.6	66.8	0	-	-		
R2年度から成果指標1に統合										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	本市には多くの国指定史跡があり、保存のため公有化が必要な面積も大きい。また、指定に至っていない重要な土地も残されており、発掘調査の結果、所有者の同意を得て、追加指定を進めていく。		
これまでの見直しや改善等の経過	限られた予算の範囲内で、優先順位をつけて公有化を進めている。 市街化区域ですでに宅地化されているところもあり、計画的に公有化を進めていく必要がある。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	国指定史跡の公有化を図ることは、史跡を適切に保存し、後世へ継承していくために必要である。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	少しずつではあるが、継続的に国指定史跡の公有化が進められている。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	史跡ごとの公有化の進捗や、土地所有者との交渉の状況を踏まえ、予算配分を調整しながら事業実施している。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	国民共有の財産である史跡を保存するため、公有化を図り、史跡公園として整備していくことは重要である。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	<p>計画的に公有化を図り、できるだけ早く史跡公園としての整備に着手できるよう努める。 また、公有化で一定のまとまりが確保できた土地については、情報発信や部分整備など活用方法を検討していく。</p> <p>近年も史跡の追加指定で、公有化の対象地は増えている。厳しい財政事情ではあるが、現計予算の中で、計画的に公有化を図る。また、庁内部局との連携を図り、まちづくり、地域振興、観光などの観点から、史跡の歴史的価値を活用していく。なお、将来的には史跡公園として整備して、市民に開放する。</p>

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	48.30 %	100.00 %	100.00 %
	指標2	98.64 %	100.00 %	0.00 %
成果増減率	指標1	- %	+107.03 %	-28.39 %
	指標2	- %	+1.82 %	-100.00 %
活動単位コスト	指標1	0 千円	0 千円	54 千円
	指標2	162 千円	85 千円	0 千円
成果単位コスト	指標1	655 千円	207 千円	884 千円
	指標2	397 千円	256 千円	0 千円
コスト増減率		- %	-51.99 %	+162.96 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	398				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	文化財保護課	所 属 長	山口秀一
事務事業名	00798 埋蔵文化財調査センター管理運営事業	記 入 者	山口秀一		

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	文化財保護法、埋蔵文化財調査センター条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します	関 連 する 個別計画	教育振興基本計画
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信		
	視点	02	歴史に関する情報発信		
重事	03	歴史・文化の学習機会の充実			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	埋蔵文化財調査センター管理運営事業費	

事業の概要
文化財保護法の規定に基づき、市内で実施した発掘調査により出土した埋蔵文化財を適切に保管するとともに、市民の埋蔵文化財への関心を高め、理解を深めるため、各種講座、現地見学会や展覧会を開催する。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	埋蔵文化財の適切な保管とともに、埋蔵文化財への理解を深めるために
対象 (何又は誰を)	埋蔵文化財及び市民を対象に
手段 (どのようなやり方で)	埋蔵文化財を適切に整理・収蔵するとともに、各種講座、現地見学会や展覧会を開催し
成果 (どのような状態にするのか)	多くの市民が当館を訪れて、埋蔵文化財への関心を高め、理解を深める

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		4,365	4,114	4,498	5,622	8,653	
人件費 B		15,432	12,429	12,692	18,589	17,879	
事業費合計 A+B		19,797	16,543	17,190	24,211	26,532	
事業費 の財源 内 訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	97	134	76	156	100	
	一般財源	19,700	16,409	17,114	24,055	26,432	
職員数(人)		5.38	3.78	3.80	4.05	3.45	
職員数 の内訳	正規	0.18	0.18	0.20	1.20	1.60	
	嘱託	3.50	3.50	0.00	0.00	0.00	
	臨時	1.70	0.10	3.60	2.85	1.85	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	各種講座・展覧会等の開催件数	件	目標	14	14	14	14	14
				実績	18	16	18	-	-
	最新の調査成果の発表								
	2			目標					
			実績						
成果指標	1	参加・利用者数	人	目標	2,400	2,400	1,500	1,800	2,400
				実績	2,815	2,656	1,713	-	-
	講座・現地見学会・展覧会等への参加・利用者数								
	2	発掘調査報告書発刊数	冊	目標	8	8	8	8	8
実績				10	10	9	-	-	
保存・活用の基礎となる発掘調査報告書の発刊数									

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	宅地開発等に伴い埋蔵文化財発掘調査を実施しているが、出土品は増え続けており、現地調査後の早急な整理と報告書の刊行、公開、資料の適切な収蔵・保管が求められている。		
これまでの見直しや改善等の経過	発掘調査の出土品は、当館だけでなく、市内小学校の空き教室などにも収蔵している。 多くの市民に当館事業を知ってもらうため、催し物案内や広報おまつ等で周知に努めている。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	発掘調査に携わる学芸員と連携することで、各種講座や展示会（速報展など）、発掘調査報告書の発刊など情報の発信がスピーディーかつ詳しい内容で実施できている。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が少なくなっているが、引き続き各小・中学校、市民センター、公民館等に事業内容を周知しながら来館者の増加を図っていく。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	埋蔵文化財を担当する学芸員の体験談を聞きながら、実物の埋蔵文化財を見たり、触ったりできる場所は少なく、大変有意義である。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	次世代に継承していくため、埋蔵文化財を整理し、適切に保管している。 また、市内の発掘調査結果を何処よりも早く成果展（速報展）として展示・公開しており、市民の歴史・文化に対する興味・関心を高めることに繋がっている。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	埋蔵文化財発掘調査の出土品を適切に保管できるよう努める。 発掘調査後の迅速な整理、報告や公開を継続し、歴史・文化の学習機会の充実を図っていく。その際には、多くの市民に文化財への理解を深めてもらえるよう、わかりやすい展示や説明に努める。
部局長コメント	市民に対してセンターの活動を広く紹介するとともに、埋蔵文化財に触れる機会の拡充に努める。 なお、年々増加する出土遺物について、その保管場所を確保するため、早急に検討していく必要がある。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1 117.29 %	110.66 %	114.20 %
	指標2 125.00 %	125.00 %	112.50 %
成果増減率	指標1 - %	-5.64 %	-35.50 %
	指標2 - %	±0.00 %	-10.00 %
活動単位コスト	指標1 1,099 千円	1,033 千円	955 千円
	指標2 0 千円	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標1 7 千円	6 千円	10 千円
	指標2 1,979 千円	1,654 千円	1,910 千円
コスト増減率	- %	-13.93 %	+38.28 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	399				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	文化財保護課	所 属 長	山口秀一
事務事業名	00800 文化財管理運営事業	記 入 者	西中久典		

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	文化財保護法、文化財保護条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します		
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信		
	視点	02	歴史に関する情報発信		
重事	04	地域との協働による自然・歴史・文化の魅力の発掘・情報発信	関連する個別計画		

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	文化財保護管理運営事業費	

事業の概要
文化財保護に係る諸事業を実施する。特に公有化した史跡等を適正に管理することで、市民の文化財への理解を深め、将来の史跡公園としての整備につなげていく。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	市内の国指定史跡等を良好な形で守り伝えていくために
対象 (何又は誰を)	市内に残された国指定史跡等を対象に
手段 (どのようなやり方で)	適切に除草・剪定等を行ない
成果 (どのような状態にするのか)	日常的な維持管理を行い、将来的な史跡公園としての整備につなげる

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		20,326	16,855	12,088	13,609	16,002	
人件費 B		14,853	15,870	13,763	13,633	13,633	
事業費合計 A+B		35,179	32,725	25,851	27,242	29,635	
事業費の内訳	国	3,360	2,500	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	31,819	30,225	25,851	27,242	28,635	
職員数(人)		2.00	2.10	1.85	1.75	1.75	
職員数の内訳	正規	1.90	2.00	1.80	1.70	1.70	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.10	0.10	0.05	0.05	0.05	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	市管理の史跡・遺跡等の除草件数	件	目標	18	18	18	18	18
				実績	18	18	18	-	-
	一年間で実施した箇所			目標					
				実績					
成果指標	1	市管理の史跡・遺跡等の環境を維持できた件数	件	目標	18	18	0	0	0
				実績	18	18	0	-	-
	一年間で除草・剪定等を実施した箇所 ※令和2年度事後評価から成果指標を削除			目標	100	100	100	100	100
	市管理の史跡・遺跡等で除草を実施した割合			目標	100	100	100	-	-
一年間で除草を実施した割合 ※平成30年度事後評価から適用			実績	100	100	100	-	-	

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	本市には多くの史跡等があり、保存のため公有化した国指定史跡等では、除草、剪定等の日常管理が欠かせない。		
これまでの見直しや改善等の経過	これまで委託業務の内容を年3回から通年管理に改めたり、委託先を一般業者から地域の保存団体に変更するなど、管理経費の抑制に努めるとともに、地域住民の史跡等への理解を深めている。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	住宅街に近接して史跡等があることから、市民生活に影響が生じないように適切に管理していく必要がある。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	地域の保存団体などが管理する史跡等も増えてきており、経費の抑制とともに、史跡等の保存意識が高まっている。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	史跡等の所在、現状を考慮して、除草回数や手法を工夫している。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模の見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	史跡等を適切に維持管理し、将来的な史跡公園として整備につなげる。このことで、市民の史跡等への理解を深め、まちづくり等にも活用していく。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	本市には多くの史跡等があるが、公有化したところは日常の維持管理を行い、適切に保存する必要がある。周辺住民をはじめとする市民の理解を得たうえで、将来的には史跡公園として整備していく。
部局長コメント	公有化した史跡等は適切に管理する必要がある。地域住民等に史跡等の管理を依頼する場合は、管理経費が抑制できることはもとより、地域住民等が史跡等に関わり、その保存に対して理解が深まることに意義がある。今後も地域住民等の理解と協力を得ながら、史跡等の適切な管理に努めていく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	- %	- %
	指標2	100.00 %	100.00 %
成果増減率	指標1	- %	%
	指標2	- %	±0.00 %
活動単位コスト	指標1	- 千円	- 千円
	指標2	0 千円	0 千円
成果単位コスト	指標1	- 千円	- 千円
	指標2	351 千円	327 千円
コスト増減率	- %	-6.97 %	-21.00 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	406	
部 局 名	教育委員会	所 属 名 歴史博物館
事務事業名	00782 歴史博物館資料調査・収集事業	所 属 長 押栗 雅則
		記 入 者 寺島 典人

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	博物館法・天津市歴史博物館条例・天津市附属機関設置条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します		
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信		
	視点	02	歴史に関する情報発信		
	重事	01	歴史博物館機能の充実	関連する個別計画	
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	歴史博物館資料調査・収集事業費	
事業の概要	歴史博物館では、常設展示・企画展示・れきはく講座及びレファレンス等によって、市民に天津の歴史と文化にかかる情報を発信している。それを支えるものが本事業である。ここでは、天津・近江にゆかりの深い資料（美術工芸・歴史・考古・民俗の各分野）を、購入・受贈・受託等によって収集するとともに、市内の社寺・旧家等に長年保管されてきた資料の調査を実施し、これらの成果を展示等に活用している。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他（ ）				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	天津の持つ豊かな歴史や文化を保全・発信するための基礎調査を行い、必要に応じて資料を収集する。
対象 (何又は誰を)	収集・調査対象は天津市内の社寺、旧家、地域の古老、小中学校を始めとする教育施設、公共施設等、多岐に渡る。また市外であっても、天津の歴史に関連する資料について、適宜調査を実施している。
手段 (どのようなやり方で)	他の博物館学芸員、研究者及び市民等と連携、情報を収集するなかで実施。また各所蔵者（所蔵団体）との交流を図りながら、資料の保存活用を目指す。調査成果はマスコミやホームページ等に発表し、周知をはかる。
成果 (どのような状態にするのか)	資料及び歴史情報を蓄積し、博物館展示やレファレンスなどを通じて発表し、その成果を市民等が活用できること。それによって市民が郷土への愛着を深め、また市外における天津の豊かな歴史に対する評価を高めること。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		2,880	2,668	2,744	2,795	2,795	
人件費 B		18,238	19,970	16,501	17,321	17,321	
事業費合計 A+B		21,118	22,638	19,245	20,116	20,116	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	17	1	0	75	75	
	一般財源	21,101	22,637	19,245	20,041	20,041	
職員数(人)		2.53	3.10	2.20	2.30	2.30	
職員数の内訳	正規	2.13	2.20	1.90	2.00	2.00	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.40	0.90	0.30	0.30	0.30	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	博物館年間資料収集件数	件	目標	30	30	30	30	30
		実績		30	36	12	-	-	
2		購入・受贈・受託による年間資料収集件数		目標					
		実績							
成果指標	1	博物館年間購入・受贈資料件数	件	目標	10	10	10	10	10
		実績		22	33	12	-	-	
2		博物館の所蔵となった資料の件数		目標					
		実績							

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	地域や個人が守り伝えてきた文化遺産が市内には数多く残されている。しかしこれらは時代の変化の中で、維持継承が困難になり、廃棄・消失・散逸の危機に瀕しており、調査や保存を継続的に行なう必要がある。		
これまでの見直しや改善等の経過	受託資料が国重要文化財に指定されるなど、地域の資料を保管し、後世に伝える役割はますます重要になっている。地域との連携を深める活動をより進め、その成果を展示や講座で紹介していく。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	博物館活動の根幹である。大津の歴史を伝える資料の散逸を避けるためにも、地域との信頼関係を深めながら資料の調査・収集を進める。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	資料の収集活動を積極的に進めており、その成果を展示・講座等に活かしている。収集資料が国や市の文化財指定を受けたことも、活動が有効であることを示している。ただし、コロナ禍による外出制限が出る中で活動は限定されたため、受贈の件数は少なかった。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	資料の調査収集は、所蔵者との信頼関係を構築しながらの地道な作業となる。受け入れた資料の整理も時間を要する作業となるが、限られた人員と予算の中で進めている。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	大津の豊かな歴史を物語る有形文化財の収集・保存は、本市の未来につながる作業である。成果は展示や講座等で発信しており、身近な歴史への理解と郷土への愛着を深める一助となっている。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	市民や団体からの資料の調査や保存の依頼は多い。所蔵者との関係を深めつつ調査収集を進めることで、資料の価値を位置づけ、保存や活用につなげていく。
部局長コメント	歴史博物館の基本となる事業である。引き続き大津の歴史を掘り起こす地道な作業を続け、所蔵者との信頼関係を深めながら、その成果を展示等により市民に還元していくこと。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1 220.00 %	330.00 %	120.00 %
	指標2 - %	- %	- %
成果増減率	指標1 - %	+50.00 %	-63.63 %
	指標2 - %	%	%
活動単位コスト	指標1 703 千円	628 千円	1,603 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1 959 千円	686 千円	1,603 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率	- %	-28.53 %	+133.78 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	407	
部 局 名	教育委員会	所 属 名
事務事業名	00784 博物館企画展示事業	所 属 長
		記 入 者
		押 栗 雅 則
		寺 島 典 人

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	博物館法・天津市歴史博物館条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します		
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信		
	視点	02	歴史に関する情報発信		
	重事	01	歴史博物館機能の充実	関連する個別計画	
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	博物館企画展示事業費	
事業の概要	企画展の開催にあたっては、①国宝・重要文化財など一級文化財を鑑賞する機会を提供するとともに、②市内のそれぞれの地域の持つ歴史と文化の特性を紹介することによって、郷土への愛着と理解を深めていただく機会を提供するという2つの視点から、現在概ね年3回の企画展を開催している。また当館は、文化庁の重要文化財の公開承認施設に認定されており、重要文化財の公開とともに、未指定文化財の紹介にも力点を置きながら、企画展を開催している。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	大津の歴史と文化を啓発するとともに、地域で守られ、また人知れず伝わってきた文化財に焦点を当て、文化財保護への関心を深めてもらうことを目的とする。
対象 (何又は誰を)	市民をはじめとする近畿圏の住民。国内外の観光客等。
手段 (どのようなやり方で)	指定文化財の公開を主とした市内外に向けた展覧会と、市内の各地域にスポットをあてた展覧会という、2種類の内容を意識しつつ、企画展を開催する。
成果 (どのような状態にするのか)	企画展による実物資料の鑑賞によって、大津の歴史と文化に関する生涯学習の機会を提供するとともに、豊かな歴史と文化を育んだ郷土に対する愛着を深められるようにする。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		11,601	16,637	15,514	12,664	13,000	
人件費 B		24,125	21,484	22,372	20,702	22,342	
事業費合計 A+B		35,726	38,121	37,886	33,366	35,342	
事業費の内訳	国	0	1,350	5,950	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	5,884	5,205	5,864	4,193	4,500	
	一般財源	29,842	31,566	26,072	29,173	30,842	
職員数(人)		3.45	3.10	3.30	2.90	3.10	
職員数の内訳	正規	2.75	2.40	2.70	2.30	2.50	
	嘱託	0.20	0.20	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.50	0.50	0.60	0.60	0.60	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	国指定文化財展示件数	件	目標	4	4	4	4	4
		実績		20	10	24	-	-	
重要文化財公開促進事業の対象とされる目安の展示件数									
活動指標	2			目標					
				実績					
成果指標	1	企画展観覧者数	人	目標	15,000	15,000	10,000	10,000	15,000
		前年度計画(予算書)の観覧者数		実績	22,817	14,833	11,633	-	-
成果指標	2			目標					
				実績					

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	市内には多くの指定、未指定の文化財が伝えられてきたが、市民がこうした文化財に触れる機会はあまりない。身近な文化財に触れることで、地域の歴史に関する理解を深める機会を提供することが必要である。	
これまでの見直しや改善等の経過	幅広い市民に地域の歴史・文化の関心が高まるよう、常に時機に適ったテーマの展示を心がけている。今年度は国宝「六道絵」を含む「聖衆来迎寺と盛安寺展」のほか、義仲寺所蔵の「芭蕉翁絵詞伝」展を開催した。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	数多くの国指定文化財を有する大津市で、これらを公開できる施設（公開承認施設）は当館のみであり、市民が大津の豊かな歴史に触れる機会を提供することは、当館の責務である。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	「六道絵」をはじめとする大津に所在する貴重な文化財を展観する良い機会となり、「聖衆来迎寺と盛安寺」展には多くの観覧者が訪れた。大津という地域ならではの展覧会が開催できている。ただし、コロナ禍による外出制限が出ていたため、全体の観覧者数は減っている。
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 高い <input type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	国宝「六道絵」等他館保管の集荷では、文化庁の補助金を利用しながら、限られた経費で内容ある事業を実施できている。また、大河ドラマに関連した光秀展では、観光との連動で効率的宣伝が行なえた。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	開館30周年を記念する展覧会として、魅力的な展示品を数多く展示することができた。それにより、多くの大津市民や全国からの来館者に大津ならではの豊かな文化財を周知することができた。
---------	--	--

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	大河ドラマの放映など、市民の関心の高まりにあわせた展覧会を計画的に開催する一方で、博物館の調査研究の成果や地域の知られざる歴史の掘り起こしなど、新たな大津の歴史の切り口を発信する展覧会を精力的に行っていく。こうした展覧会事業は、内容や鑑賞対象に応じて事業規模にメリハリをつけながら実行していくものと考えている。
部局長コメント	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、企画展示を通じて、市内に所在する指定文化財をはじめとする豊かな文化遺産を紹介し、地域への理解と愛着を深められるようにする。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1 152.11 %	98.88 %	116.33 %
	指標2 - %	- %	- %
成果増減率	指標1 - %	-34.99 %	-21.57 %
	指標2 - %	%	%
活動単位コスト	指標1 1,786 千円	3,812 千円	1,578 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1 1 千円	2 千円	3 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率	- %	+64.13 %	+26.72 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	408		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	歴史博物館
事務事業名	00785 博物館管理運営事業	所 属 長	押栗 雅則
		記 入 者	柳田 秀

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	博物館法・天津市歴史博物館条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します		
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信		
	視点	02	歴史に関する情報発信		
	重事	01	歴史博物館機能の充実	関連する個別計画	

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	博物館管理運営事業費	

事業の概要
博物館の目的である各種資料の収集・保管・調査研究及び公開に係る諸事業を円滑に実施し、市民に快適な展示環境を提供することが管理運営事業の根幹である。そのため施設のメンテナンスやコンピュータの保守などを本事業で実施しているが、ここでの指標は、歳入面に係る常設展示の運営と、市民の文化活動の発表の場を提供する貸し館業務を挙げた。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	常設展示室や企画展示室をはじめとする館運営をスムーズに実施するため、設備の維持を行うとともに、来館者に、快適な環境のもとで生涯学習活動が進められるような場を提供することを目的としている。
対象 (何又は誰を)	市民をはじめとする近畿圏の住民及び観光客等。
手段 (どのようなやり方で)	資料の保存を図りながら、来館者が低価格で安全かつ快適に博物館を楽しめるよう管理運営する。また、市民の生涯学習活動の発表の場として、企画展示室を低価格で貸し出す。
成果 (どのような状態にするのか)	歴史・文化面での知的要求を満たし、生涯学習活動を推進するとともに、郷土への愛着を深められるようにする。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		81,891	76,602	78,021	89,779	90,626	
人件費 B		35,263	31,578	42,515	42,515	42,515	
事業費合計 A+B		117,154	108,180	120,536	132,294	133,141	
事業費の内訳	国	0	275	1,443	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	13,355	5,252	5,234	6,835	6,835	
	一般財源	103,799	102,653	113,859	125,459	126,306	
職員数 (人)		7.55	7.00	8.00	8.00	8.00	
職員数の内訳	正規	3.05	2.60	3.50	3.50	3.50	
	嘱託	1.40	1.40	0.00	0.00	0.00	
	臨時	3.10	3.00	4.50	4.50	4.50	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	開館日数	日	目標	300	301	270	300	300	
				実績	300	301	265	-	-	
	博物館の開館日数									
	2	企画展示室貸室件数	件	目標	38	38	15	38	38	
実績				32	30	13	-	-		
企画展示室 A・B の貸室の件数										
成果指標	1	常設展示観覧者数	人	目標	24,000	24,000	20,000	20,000	24,000	
				実績	21,408	19,661	20,667	-	-	
	常設展示室の年間観覧者数									
	2	企画展示室貸室入場者数	人	目標	41,000	41,000	16,000	16,000	41,000	
実績				35,095	34,824	16,645	-	-		
貸しギャラリーの観覧者数										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	地域や個人で守られてきた文化財の継承が困難となり、当館への寄託・寄贈の案件も増えてきている。文化財を安全に収蔵するためにも、また来館者が快適に観覧するためにも施設の維持管理が重要である。	
これまでの見直しや改善等の経過	施設の経年劣化を避けるためにも、計画的な修繕が必要であり、予算の許す範囲で手を尽くしている。令和2年度は、保守点検で指摘を受けた非常用自家発電装置の修理等を行った。	
項目別評価	評 価	評 価 理 由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	大津の歴史と文化を紹介し、文化財を収蔵保管する博物館本来の機能のほか、展示室を展覧会で使わない期間は、市民ギャラリーとして文化活動の発表の場としても利用されている。幅広い文化発信の場として機能している。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input type="checkbox"/> B. やや上がっている <input checked="" type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	近隣の公共ギャラリーが閉鎖や改修で利用できないことから、当館の展示室は安定して利用されている。収蔵機能についても、寄託資料が国指定になるなど、市内の文化遺産を散逸させないという役割を果たしている。しかし、常設展示室の入場者数はやや増加したが、新型コロナウイルスの影響により貸室の入場者数は減少した。
効率性 (事業手法は効率的であるか)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	新電力の導入や器具のLED化など、光熱水費の削減に努力している。来館者対応についても限られた人員で、満足いただける対応を心がけている。
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	大津の豊かな歴史や文化に触れる施設として、また市民の文化活動の発信の場として、来館者に快適な環境が維持されるように努めている。また多くの文化財を収蔵保管し、市内の文化遺産の保護にも貢献している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	限られた予算の中で、計画的な施設の修繕等の維持管理を行ない、収蔵品の適正な管理や、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、来館者に快適な空間を提供できるように努める。

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区 分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目 標 達成率	指標1	89.20 %	81.92 %	103.33 %
	指標2	85.59 %	84.93 %	104.03 %
成 果 増減率	指標1	- %	-8.16 %	+5.11 %
	指標2	- %	-0.77 %	-52.20 %
活動単位コスト	指標1	390 千円	359 千円	454 千円
	指標2	3,661 千円	3,606 千円	9,272 千円
成果単位コスト	指標1	5 千円	5 千円	5 千円
	指標2	3 千円	3 千円	7 千円
コスト増減率		- %	-3.20 %	+69.55 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	409		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	歴史博物館
事務事業名	00783 博物館普及啓発事業	所 属 長	押 栗 雅 則
		記 入 者	寺 島 典 人

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法 令 等	博物館法・天津市歴史博物館条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り	関連する個別計画	
	政策	03	悠久の歴史と文化を大切にし、次代に継承します		
	施策	01	歴史・文化遺産の保全・発信		
	視点	02	歴史に関する情報発信		
重事	02	総合学習等の推進・支援			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	政策	評価対象事業	博物館普及啓発事業費	

事業の概要
 美術工芸、歴史等各分野の講座・現地見学会・小学生向けの夏休みワークショップなどを開催することにより、天津の豊かな歴史と文化の発信を行うとともに、歴史と文化等に対する生涯学習活動のニーズに応える。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	天津の歴史と文化の豊かさを発信し、また市民の生涯学習を推進する。
対象 (何又は誰を)	市民（希望者があれば市外でも受け入れている。）
手段 (どのようなやり方で)	天津や近江に関する歴史や文化について、れきはく講座と現地見学会を開催するほか、夏休みには大学との共催で子ども向けワークショップを企画している。また、天津絵や近江八景に関するグッズを頒布している。
成果 (どのような状態にするのか)	歴史・文化面での生涯学習を推進するとともに、市民が天津の歴史と文化の豊かさを再発見し、郷土への愛着を深められるようにする。

＜3. 経費＞ DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		1,816	2,039	1,500	2,029	2,029	
人件費 B		14,220	12,743	12,062	14,752	13,112	
事業費合計 A+B		16,036	14,782	13,562	16,781	15,141	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	994	902	464	961	961	
	一般財源	15,042	13,880	13,098	15,820	14,180	
職員数(人)		2.75	2.25	2.50	2.80	2.60	
職員数の内訳	正規	1.35	1.25	0.90	1.20	1.00	
	嘱託	0.40	0.40	0.00	0.00	0.00	
	臨時	1.00	0.60	1.60	1.60	1.60	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	れきはく講座等開催回数	回	目標	41	41	15	25	41
				実績	42	40	12	-	-
	年度の計画の開催回数								
	2				目標				
			実績						
成果指標	1	れきはく講座等参加者数	人	目標	2,800	2,800	600	1,000	2,800
				実績	3,096	3,968	630	-	-
	計画回数に対応した定員数								
	2				目標				
			実績						

